

大阪インターナショナルチャーチ： ブルース・アレン牧師

聖書箇所 ヨシュア記 1 章 1 節-11 節、ハガイ書 2. 章 1 節-5 節 (NLT 版) 注釈除く

2025/02/09

メッセージ: 勇気とともに広がる人生

OIC のみなさまおはようございます。天の父なる神の家へようこそ来られました。

みなさまを歓迎いたします。

私は 1 年以上にわたってメッセージで、ローマ人への手紙、エペソへの手紙、ヨハネの手紙第一から聖書の意味を引き出そうとしてきました。簡単な概要:

ローマ人への手紙

キリスト教の主要なテーマを宣言し詳述: 義認とは、私たちに赦しを与えるためにイエス様の十字架の死に基づいて私たちは義とされもはや罪がないという神様の宣言です。クリスチャンは罪の問題が癒されたので、すべての霊的な敵に打ち勝つことができます。クリスチャンは、イエス様が失われた罪人を探し、救うために始められた働きを継続する力を持っています。

エペソ人への手紙

神様の永遠の愛に満ちた計画に従って、神様は私たちの救いを指示し、実行し、支えてくださいます。パウロは、クリスチャンはすでに天国にいる市民として生きる必要があり、神様はクリスチャンが成功するための必要以上のものを与えてくださっていると述べています: 主の恵みの栄光、報われない「恩恵」です。教会は、信仰によって神様の家族の一員となるクリスチャンの共同体です。特権には神様の家族としての責任が伴います。: 神様の家族、教会、そしてその使命のために、キリストの基準に従って生き、悪と戦うために神様の武具を身につける祈りを受け入れることです。

ヨハネの手紙 I

私は、私たちクリスチャンは皆、イエス様と共に歩むことは光の中を歩むことであり、イエス様とのより親密な歩みを神様に求める必要があることを強調しました。イエス・キリストはクリスチャンに、キリストがクリスチャンを愛されたように、互いに愛し合うことを命じられました。この愛は、クリスチャンが「真の」クリスチャンであることの証拠であり、証明です。ヨハネはこの真のクリスチャンを、グノーシス主義を信じていた「偽キリスト教徒」と比較しました。

それは偽キリスト教です。イエス様は主であり、天と地を支配しておられます。主を信じる者は、永遠の運命について祝福された保証を得ることができます。

今日から次のシリーズ、旧約聖書のヨシュア記を始めます。OIC（この教会）は今、危機的状況にあります。多くの教会員がOICを去り、危機的状況にないと感じている教会に移っています。逃げ出した人たちは、牧師と忠実な教会員が完全に失敗することを期待しているように思えます。彼らはOIC（この教会）が2026年に閉鎖されると予想しています。

アメリカを中心とした歴史的な出来事をお話しさせてください。この出来事は世界中の人々の心を捉えました。1971年、3人のアメリカ人宇宙飛行士が月面着陸を目指した宇宙船の中で死にかけていました。技術的な災害が発生しました。酸素タンクを定期的に攪拌していたところ、内部の損傷したワイヤー絶縁体に引火し、爆発が起こり、サービスモジュールの両方の酸素タンクの内容物が宇宙空間に放出されました。そのため、宇宙飛行士たちはより小さな酸素タンクを搭載した、より小さな再突入モジュールに押し込められました。宇宙飛行士たちの死が確実視されたのは、呼吸に必要な空気が不足しただけでなく、空気のフィルターシステムが失われたからです。アポロ13号のフライトディレクターであったGene Kranzは、このミッション、アポロ13号、そしてNASA自体の失敗を予言する多くの人々の声を聞いていました。彼はこのように公言しています。「私は、これが私たちの最良の時になると信じています。我々は勝利し、この宇宙飛行士達は死にません。〔人々が語っている失敗や死は〕私は断固として認めない。

地上のエンジニアたちの驚くべき創意工夫により、宇宙船内のダクトテープやさまざまなものを使って空気清浄機（スクラバーシステム）が発明されました。これは神様の慈悲でした。全世界が祈り始めたからです。その模様は国際放送で放映されました。神様が介入し、不可能が現実となり、3人の宇宙飛行士は6日後に無事帰還しました。私は敗北を予測する周囲の批判で危機的状況のときのGene Kranzの姿勢に同意します。同じようにこの危機的なOICの状況がOICにとって最良の時になると信じています。私は神様の愛が私たちのドアから溢れ出て滅びゆく都市、大阪に到達するまで、神様の愛が天から私たちOICに降り注ぐのを信じます。

始めましょう.....いいえ。御言葉と御霊の中で続けましょう....。

ヨシュアの不可能な使命

<ヨシュア記 1章1節>

1 主に忠実に従ったモーセが死ぬと、彼に仕えていたヌンの子ヨシュアに、神は告げて言いました。

ヨシュアは最近恩師の死に直面していました。モーセはヨシュアに教えただけでなく、エジプトの奴隷状態から約束の地カナンにイスラエルを導くというモーセの召命について、神様の超自然的なあがないや証拠を示しました。

次の節<ヨシュア記 1章2節>

2「わたしのしもべモーセは死んだ。あなたこそ次のイスラエルを担う新しい指導者だ。さあ、人々を率いてヨルダン川を渡り、約束の地へ行きなさい。

ヨシュアは、何千人もの人々の共同体を率いるにはまだ早いと感じたに違いありません。神様はヨシュアに「不可能な使命」の任務を与える許可を求めませんでした。より不可能になりますが、次の神様の約束があります。

<ヨシュア記 1章3節-4節>:

3 モーセに約束したとおりのことをあなたにも約束しよう。『あなたがたの行く所はどこも、イスラエルの領地となる。

4 南はネゲブの砂漠から北はレバノン山脈まで、西は地中海から東はユーフラテス川まで、ヘテ人の全領地も含まれる。

神様はヨシュアに、モーセとの神様の約束はヨシュアの恩師であるモーセと一緒に死んだのではないと告げます。神様はヨシュアに、地理的な詳細とともに、神様の約束を繰り返されました。ヨシュアはカナンに通じるヨルダン川のほとりに座っていました。主は本当に言うておられます：「ヨシュア、この土地に足を踏み入れなさい。あなたのために大勝利をもたらすために、私は超自然的なことをする！」

<ヨシュア記 1章5節>:

5 一生の間、あなたに手向かう者などいない。わたしがモーセと共に歩んだように、あなたとも共に歩むからだ。決して見放したり、見捨てたりはしない。

私たちは、神様がカナンの罪深い民に悔い改めるための長い年月を与えていたことを覚えていなければなりません。これらの土地には偶像崇拜がはびこり、子供を偶像に捧げるなどの卑劣な習慣がありました。それらの罪は神様の審判が下されるのに実りきっていました。神様が下されるのに実りきっていた審判とは、イスラエルが神様の戦士としてカナンを侵略することを意味していました。イエス様が罪のために十字架で犠牲となる以前は、このような重大な罪を取り除く唯一の方法は、罪人を取り除くことでした。これは、神様の正義の裁きによって、カナン人が完全に絶滅することを意味していました。しかし、少なくとも一人の罪人の心は、義なる神様に飢えていたことがわかるでしょう。ヨシュア記2章を読むと、義なる神様に飢えていた少なくとも一人の罪人は娼婦ラハブでありました。彼女は実際にイエス様の家系に現れ、神の人の男性と結婚します。彼女は真の神様に従い続けました。彼女はまた、聖書の「信仰の英雄」<ヘブル人への手紙 11章31節>にも挙げられています。

売春婦ラハブは、神とその力を信じていたので、イスラエルの偵察隊を自分の家にかくまいました。その信仰によって、彼女は、神への服従を拒んだエリコの住民が滅ぼされた時に救い出されたのです。

次に、神様はヨシュアに勇気を持つように命じられます。

＜ヨシュア記 1 章 6 節＞：

6 ヨシュアよ、雄々しく立ち、勇気を出しなさい。りっぱな指導者になるのだ。わたしが先祖に与えると約束した地を全部、占領しなさい。

神様はヨシュアに「強くあれ、勇気を持て」と命じられましたが、勇気を心の中に見出すのは、肉体の強さよりも難しいことが多いです。しかし信仰は、私たちが神様を信頼するならば、神様が起こるようにされないことは神様は決して命じないということを言っています。ヨシュアは神様を信頼しました！

繰り返しは良い教訓です。神様は＜ヨシュア記 1 章 7 節 a＞で再び言われます。

7 強く雄々しくあつて、勇気を出しなさい。

次に神様はヨシュアに、カナン人との戦いに加え、霊的な責任についても指示されます。

＜ヨシュア記 1 章 7 節 b＞：

モーセが与えた律法をしっかりと守りなさい。そうすれば、あなたは成功する。

神様はヨシュアが生身の人間に対して真に聖なる戦いをするを可能にされます。しかし、主はヨシュアに、神聖さは剣の中だけでなく、心の中から始めなければならないことを思いさせました！もしヨシュアがモーセの指示に従えば、神様がヨシュアの成功を導いてくださいます！

神様の命令と挑戦を受け入れる勇気が増し、ヨシュアの人生は外へと広がっていきました。アブラハム、イサク、ヤコブの神様へのヨシュアの愛の心は、神様がヨシュアに約束されたものを受け取る道を開きました。ヨシュアがこの神様への愛と信仰を示したのは、イスラエルの民がカナン人の土地を探検して戻ってきたとき、少数派の報告であるヨシュアとカレブだけが良い報告をしたときでした。

これは＜民数記 13 章と 14 章＞に記されています。

12 名の偵察者がカナンを探索する

13.1 主はモーセに告げて言いました。

2 「いずれはあなたがたのものになるカナンに、まず偵察隊を送り込みなさい。各部族から一名ずつ選ぶのだ。」

＜民数記 13 章 27-28 節、30 節-33 節＞

27彼らの報告は次のとおりです。「ただいま戻りました。カナンは実にすばらしい国です。まさに、乳とみつが流れる国でした。その証拠に、持ち帰ったくだものをごらんください。

28 しかし残念なことに、住民は強く、町々は非常に大きく、城壁を巡らしてあります。そのうえ、アナクの子孫の巨人族がいます。

30 この報告に、人々はざわつきました。しかし、カレブはモーセの前でみなを静めると、きっぱり言いました。「われわれは、すぐ攻め上ってカナンを占領しよう。大丈夫、やれば必ずできる。」

31 「むちゃなことを言うな。あんな強い相手では、かなうわけがない。とても歯が立つものか。」 偵察に行ったほかの者は大反対です。

32 結局、ほとんどの者はあまり乗り気ではなかったので、彼らは人々に言いました。「国中に兵士がおり、住民はたくましい体格をしている。

33 昔の巨人の子孫アナク人もいるし、彼らと比べたら、私たちなど虫けら同然に見える。」

民衆の反逆 1

<民数記 14 章 1 節-12 節>

1 それを聞いた人々は、絶望的な声を上げて、夜通し泣き続けました。

2 ・ 3 やがて嘆き声は、モーセとアロンへの痛烈な非難の声に変わりました。「なんてことだ。こんなことならエジプトで死んだほうがよかった。そんな国に行くくらいなら、この荒野で死んだほうがまだましだ。神様はおれたちを殺すつもりなんだ。そうなったら、妻や子は奴隷にされてしまう。さっさと引き返して、エジプトへ帰ろう。」

4 この声は野営地中に広まり、「エジプトに連れ戻してくれる指導者を立てよう」と、人々は叫ぶのでした。 5 モーセとアロンはみなの前で顔を地につけ、ひれ伏しました。

6 偵察に加わったヌンの子ヨシュアとエフネの子カレブは、人々のあまりのふがない姿に着物を引き裂き、

7 こう訴えました。「私たちの目の前にあるのはすばらしい国だ。

8 それに主が味方なのだ。主は私たちを安全に導き、必ずその国を下さる。乳とみつの流れるすばらしい国を下さるのだ。

9 主に背くのはやめよう。人間など恐れなくていい。主がいっしょにおられる。だれも神様にはかなわないのだから、恐れることはない！」

10 ・ 11 ところが人々は、二人の言うことを聞こうともせず、かえって石で打ち殺そうとしました。その時、神の栄光が現れ、声が響きました。「モーセよ、この者たちはいつまでわたしを軽んじるのか。あれだけの奇跡を見ても、まだわたしを信じないのか。

12 こうなったら、彼らを疫病で滅ぼしてしまおう。代わりにあなたから、もっと強く、もっと偉大な国民を起こそう。」

モーセはイスラエルの民を救うために神様と議論する

<民数記 14 章 15 節-16 節>

15 今、イスラエルの民を一人残らず滅ぼしてもされたなら、どうなるでしょう。あなたのすばらしさを耳にしていた人々は、これ幸いに、

16 ‘『なんだ、あの神は。荒野でイスラエル人どもを養うこともできず、結局は殺してしまった。約束の地へ連れて行く力など、初めからなかったのだ』と、ばかにするに違いありません。

その時、神様の怒りは、神様に選ばれた民のこのような不信仰に対して燃え上がりました。イスラエルの全能の神様ではなく、人間の力に頼って勝利を得ようとする、そのような不信仰を口にするすべての者たちを、神様は誓いました。カレブとヨシュア以外の者たちはすべて、荒野での40年間の懲罰で死ぬことになる。カレブとヨシュアは勇気と神様への信仰の言葉を語りました。

<民数記 14 章 20 節-23 節>で、モーセがイスラエルの民を赦してくださるように主を説得した後、私たちは次のように書かれているのを見ます。：

20 ・ 21 ・ 22 ・ 23 「あなたがそれほど言うなら赦そう。だが、これだけは言うておく。エジプトでもこの荒野でも、すばらしい奇跡を見ながら十度も強情を張り、わたしを信ぜず、従おうともしなかつた者たちは、決して約束の国を見ることはできない。栄光が全地に満ちている神であるわたしがこう言う以上、それは絶対だ。」

神様はヨシュアの愛と神様への信仰に報い、イスラエルの指導者として生き残り、約束の地カナンに入るといふ成功を収めました。

<ヨシュア記 1 章 9 節-11 節>を読みましょう。

9 さあ、勇気を出しなさい。恐れたり迷ったりしてはならない。どこへ行っても、あなたの神であるわたしがついてる。

10 ・ 11 ヨシュアは指導者たちを集め、人々にヨルダン川を渡る準備をさせるよう命じました。そして、はっきりと宣言したのです。「三日以内にわれわれはヨルダン川を渡る。神様が与えてくださる地を占領するのだ。

神様は時の上におられます！ 神様は、神様の命令を受け入れた後のヨシュアの人生に起こる戦いと敗北を見ていました。神様の命令 神様はその命令の中で、力の約束を再び繰り返します：強く、勇気を持つ！ 恐れるな、落胆するな。あなたがたの神、主は、あなたがたの行くところどこにいても、あなたがたとともにおられるからである。ヨシュアは、自分の人間的な弱さを知っていました。誰も神様には勝てません！ 不信心な偵察者たちとは違って、ヨシュアは自分の力ではなく、神様の無限の力に頼りました。神様の約束である絶え間ない交わり、モーセが持っていたような関係を信じる信仰が、ヨシュアを前進させました。

恐れはいけない、落胆してはいけない！恐怖が入り込めば...信仰は消え去ります！ヨシュアは信仰と愛で応えます。旧約聖書に登場する神様のための戦士たち、信仰の人たちが、自己の栄光を求めていたとは決して考えてはなりません。旧約聖書に登場する神様のための戦士たち、信仰の人たちは、神様に栄光を帰すために自分の人生を捧げることに全力を注ぎました。

<ヨシュア記 1章10節-11節>

10・11 ヨシュアは指導者たちを集め、人々にヨルダン川を渡る準備をさせるよう命じました。そして、はっきりと宣言したのです。「三日以内にわれわれはヨルダン川を渡る。神様が与えてくださる地を占領するのだ。」

ヨシュア記1章1節-2節からの現代のヨシュアとしての今日のクリスチャン

<ヨシュア記 1章1節-2節>

1-主に忠実に従ったモーセが死ぬ -私は、人間的な教師が天に召され、あるいは人生から去られ、信仰を揺るがされたクリスチャンを知っています。これは人間的な反応ですが、祈って取りかなければいけません。クリスチャンは決して自分自身に「私はただの人間です。」と言ってはなりません。私たちは神様の子であり、不滅の神様の子になっているからです。！

親愛なる OIC の聖徒のみなさん、あなたが人々を導く時が来たのです、私は、神様の御言葉をより深く学び、イエス様のためのリーダーとなることを学びたい男性たちのために、特別な弟子訓練クラスを行っています。Dorothy による女性親睦会（日曜日）、おそらく毎週半ばに開かれる週一回の女性聖書研究会は、OIC の女性たちにも同じような機会を与えてくれるでしょう。私たちは国際的な教会です。しかし、私たち日本人の教会員は特別な方法で挑戦されています。この大国日本の教会が、男性のリーダーシップ不足のために減っていることは間違いないように思えます。女性のリーダーシップも良いですが、健全な教会は、男性が家庭の長であるという聖書の教えを支持します。あらゆる文化圏の子供達は、地域の教会で男性のリーダーシップを見る必要があります。私は、あらゆる文化圏の指導者が、指導者であるイエス様への愛の心から、導き、従うために立ち上がる OIC を信じて見ます。

<ヨシュア記 1章3節>

モーセに約束したとおりのことをあなたにも約束しよう。『あなたがたの行く所はどこも、イスラエルの領地となる

神様のすべての敵に対する勝利。すべてのクリスチャンとしてのモーセは、主の味方でした。

したがって、神様の敵はモーセの敵でもありました。イスラエルはカナン人と戦いました。クリスチャンは自分の罪深い性質や悪魔と戦います。神様はローマ人への手紙の中で約束されました：クリスチャンは罪の問題が癒されたので、すべての霊的な敵に打ち勝つことができます。クリスチャンは、イエス様が失われた罪人を探し、救うために始められた働きを継続する力を持っています。

<ローマ人への手紙 8章 31節-34節>

31 こんなにすばらしい恵みに対して、いったい何と言ったらよいでしょう。神が味方なら、だれが私たちに敵対できるでしょうか。

32 神は私たちすべてのために、たった一人の御子さえ惜しまずに、死に渡されたほどのお方ですから、ほかのすべてのものをも下さらないわけがあるでしょうか。

33 神がご自分のものとして選ばれた私たちに訴えるのはだれですか。神ですか。とんでもない。神は私たちを赦し、義としてくださった方ではありませんか。

<ヨシュア記 1章 5節>

一生の間、あなたに手向かう者などいない。わたしがモーセと共に歩んだように、あなたとも共に歩むからだ。決して見放したり、見捨てたりはしない。

イエス様は私たちの地上での全生涯を通して、私たちとともに歩んでくださいます。ヨハネの手紙 I からのメッセージの中で、私は、イエス様と共に歩むことは光の中を歩むことなので、私たちクリスチャンは皆、イエス様とのより親密な歩みを神様に求める必要があることを強調しました。主がモーセとともにおられたように、イエス様も私たちとともにおられます。<ヨハネの手紙 I 1章 3節>でイエス様が私たちに約束しておられるように

私たちは実際に見聞きしたことを伝えているのです。それは、あなたがたが私たちと同じように、父なる神やそのひとり子イエス・キリストと交わることができる者となるためです。

<ヨシュア記 1章 7節 b>

モーセが与えた律法をしっかりと守りなさい。そうすれば、あなたは成功する。

親愛なる OIC の聖徒のみなさん、私たちの指導者であり教師であるイエス様は、モーセと同じように死なれましたが、モーセとは違って、イエス様はよみがえられました。イエス様は永遠に生きておられます！使徒ヨハネはその第一の手紙の中で、私たちの神聖な心に対するイエス様の指示を強調しています。だから私たちクリスチャンは、<ヨハネの手紙 I 3章 23節>のイエス様の命令を思い起こします。

神の命令には、喜んで従わなければなりません。つまり、御子イエス・キリストの名を信じ、互いに愛し合わなければなりません。

ヨシュアは師であるモーセに従い、神様と神様の民を愛しました。私たちの師であるイエス様も、私たちにも神様と神様の民を愛すように命じておられます。しかし、神様はイエス様の命令に従うために、私たちの助け主としてご自身の御霊なる聖霊様を与えてくださいました。<マタイの福音書 11章 30節>のイエス様の約束もまた真実であることを知っています。

わたしが与えるのは軽い荷だけだからです。

ゼルバベルへの神様の命令-強くあれ

<ハガイ書 2章 1節-5節>

1 同じ年の第七の月の二十一日に、主は次のようなことばをハガイを通して彼らに送りました。

2 「総督と大祭司、およびこの地に残っているすべての者に、こう尋ねよ。

3 ‘『あなたがたの中に、前にあった神殿を思い出せる者がいるか。それは栄光に輝く神殿であった。それに比べると、今は無に等しいのではないか。

4 しかし勇気を出せ、ゼルバベル、ヨシュア、すべての民よ。元気を出して働け。わたしが共にいるのだからと、全能の主が言われる。

5 エジプトを出た時、わたしの霊がおまえたちにとどまる、と約束した。だから恐れるな。』’
ヨシュアとは異なり、ハガイの時代の神の民には別の課題があります。彼らは70年間のバビロニアへの国外追放からもどったばかりでした。彼らの指導者ゼルバベルは聖霊なる神様の力を受けました。しかし、年配のイスラエル人の多くは、ネブカデネザル率いるバビロニア軍によって破壊される前のソロモン神殿の素晴らしさを覚えていました。再建された神殿の状態は期待外れでした！

ヨシュアの人生は、勇気を持って征服せよという神様の命令によって拡大しました。ゼルバベルは、ユダの捕囚総督から神様の栄光を復活させる指導者へと人生を拡大するために勇気を必要としました。ユダ出身のイスラエル人は、長年にわたる偶像崇拜と、神様の預言者たちを迫害し殺害したことで罰せられました。

<エレミヤ書 29 章 10 節>

実際、おまえたちは七十年間バビロンにいることになる。そののち私は、おまえたちに約束しておいたすべての祝福を与え、故国に連れ戻す。

これは預言者エレミヤが<エレミヤ書 29 章 10 節>で語ったことです。こうしてゼルバベルは、意気消沈していたイスラエルの民を神様のためにエルサレムと神殿を再建するために、神様に任命された指導者となりました。落胆との戦いに関しては、再建するということはいろいろな意味でもっと難しいです。これらの人々は罪を悔い改めていました。クリスチャンでさえ、自分を赦し、神様の約束がまだ自分のためにあると信じるのが難しいことがあります。これはクリスチャンの心であって、愛する神様の心ではありません。

神様の心の愛と赦しで、神様の指導者ゼルバベルとすべてのイスラエルの民に、「強くあれ」と神様の命令がきました。さあ、仕事に取り掛かりましょう。

神様が神様の臨在を約束されたことは注目に値します！

私は、神様のような偉人は存在しないと信じています。神様の偉大さにより大きな信仰を見出す偉人だけが存在します。神様はすべての指導者たちに、勇気を持ち、強くなるための唯一でただ一つの理由を与えました。神様はモーセとヨシュアとゼルバベルに言いました。

<ハガイ書 2 章 4 節-5 節>

4しかし勇気を出せ、ゼルバベル、ヨシユア、すべての民よ。元気を出して働け。わたしが共にいるのだからと、全能の主が言われる。

5 エジプトを出た時、わたしの霊がおまえたちにとどまる、と約束した。だから恐れるな。』
全能の神様、父なる神様とその御子イエス様との単純な交わりと友情に合う強さと勇気の源はありません！全能の神様、父なる神様とその御子イエス様との単純な交わりと友情以外に、クリスチャンが神様にすべてを捧げようとする理由や祝福はありません。

<ハガイ書2章5節>

5 エジプトを出た時、わたしの霊がおまえたちにとどまる、と約束した。だから恐れるな。』
<ハガイ書2章5節>においても、神様は神様の御臨在の力を強調されています。紅海が割れてイスラエルの民がエジプトを脱出できたのは、神様の霊によるものでした。それからパロの軍隊が紅海を渡ろうとすると、水が押し寄せ、パロの軍隊は溺れました。イスラエル兵を上回る敵の軍隊は、剣だけでなく、稲妻や災い、さらにはスズメバチの襲来などの奇跡によって滅ぼされました。神様は超自然のお方であり、モーセだけでなく、神様ご自身がイスラエルの民の解放を画策されたことを覚えてほしいと願われました。70年ぶりにバビロニアへの追放から帰還したイスラエルの民に、再びそのような奇跡的な神様の力で解決してくださると信じてほしかったのです。

ゼルバベル、そして今日 OIC にいるクリスチャンたちよ---強くあれ

世界中の多くの教会が、COVID の疫病以来、教会員の人数を回復していません。私たちは皆、教会成長のための神様の大きな動きを振り返ることができます。私はジーザス・ムーブメント（1960年代後半から1970年代前半にかけてアメリカ合衆国の西海岸で起こったキリスト教運動）の時代にアメリカでクリスチャンになりました。アメリカ中に教会ができました。神学校は、男女が彼らの心で神様の召命に応え、拡大していきました。そのことは私の以前の家では、もはや現実ではありません。

教会の成長を望むのは良いことです。これは、より多くの罪人が来るべき神様の裁きから救われることを意味するからです。教会の成長はまた、クリスチャンがイエス様とのより親密な歩みを楽しむことを意味します。しかし、モーセ、カレブ、ヨシユアが不可能な使命を目の前にしても、信仰を守り続けて、100万人のイスラエルの民をエジプトから脱出させたことを思い出すことは極めて重要です。この3人は、神様の聖霊様によって力づけられ、ヨルダン川からカナンに到達した残った人々です。同じように、ゼルバベルやネヘミヤのような人々の信仰の心は、エルサレムの町と神様の神殿を再建することで萎縮することを拒びました。ゼルバベルが再建した輝かしい神殿は、私たちの神様にとって、指導者たちの心ほど重要ではありませんでした。彼らは偶像に膝を屈することも、主の誠実さを忘れることも拒びました。

彼らは、敵を打ち負かしたり、再建したりする前に、神様への信仰と愛によって神様を喜ばせました。OICのみなさんはここで、より繁栄した日々を振り返ることができます；しかし、イエス様は私たちにイエス様に従い前進するよう求めておられます。

人生は勇気に比例して縮んだり広がったりする

ヨシュアとゼルバベルが勝利したのは、彼ら自身ではなく、神様への愛と信仰のゆえでした。イエス様を信じる新約聖書のクリスチャンは、より確実な約束を持っています。紅海が開かれた奇跡や、捕囚となっていたイスラエルの民が70年の捕囚期間を経てバビロンから解放された驚くべき奇跡を、私たちは知らないのかもしれませんが、しかし、私たち一人ひとは、神様の御霊なる聖霊様がイエス様を信頼するように心を開いてくださったとき、人生が一変するのを目の当たりにしてきました。ローマ人への手紙で見たように、私たちの罪の問題は解決されました。私たちは、聖なる神様の前に義人として立っています。私たちは天の父なる神様と呼び、天の父なる神様は私たちを愛する子と呼びます。エペソ人への手紙で見たように、神様は永遠の昔から、私たちをこの輝かしい救いに導いてくださいました。私たちはキリストにおいて、神様は私たちをすでに天国に呼んでおられるので、すでに天国の市民として生きることができます。OICとすべての教会は、キリストの基準で生きる力を持つ共同体です。私たちは皆、神様の武具を身につけ、大阪の家族や隣人に対する地獄の計画を打ち負かすことができます。使徒ヨハネは、真のクリスチャンとして私たちに祝福された保証を与えています。私たちはイエス様とともに歩みます。イエス様との歩みは、イエス様が私たちに命じられたように、私たちが互いに愛し合うことを引き起こします。イエス様は天地の主であり、私たちの永遠の運命は神様によって確保されています。

イエス様はヨシュアのように、ここ大阪で新たな神様の領土を征服するよう私たちに呼びかけています。神様はまた、ゼルバベルのように、これからの時代にもっと輝く素晴らしい教会となるように、神様を信じ、働くように私たちに求めておられます。

私、あなた方の牧師は、この困難な時がOICの最良の時になると信じています。私は神様の愛が私たちのドアから溢れ出て滅びゆく都市、大阪に到達するまで、神様の愛が天から私たちOICに降り注ぐのを信じます。継続すると同時に、新たなスタートをはじめましょう。神様は私たちの挑戦に落胆されることはありません。私たちはイエス様によって私たちの罪のエジプトの束縛から解放されました。私たちを私たちの罪のエジプトから連れ出してくださった御霊なる聖霊なる神様が、今もここにおられることを思い出しながら、新たに建設する時なのです！恐れによって、イエス様を愛する私たちの心から信仰を追い出してはなりません。神様の誠実さは語られています：

<ハガイ書2章5節>

エジプトを出た時、わたしの霊がおまえたちにとどまる、と約束した。だから恐れるな。』

そうです。私たちの勇気によって、人生は縮んだり広がったりします！ これは神様の民の心にとどまる御霊なる聖霊なる神様によるものです。勇気を求め、ともに信じましょう！

祈りましょう